竹中夏海『アイドル＝ヒロイン　歌って踊る戦う女の子がいる限り、世界は美しい』

はじめに

2015 年現在：2010 年頃からつづくアイドルブームの定着―――女性アイドルファンの存在感が増している
アイドル現場→「女性限定イベント」、「女性専用エリア」があることが普通

「テレビの向こう側」から「身近な存在」へ

●アイドル―女の子
2000 年代後半～アイドルブーム（AKB48 など）→アイドルファンが拡大
→アイドルの数も増えた→敷居が低くなり女の子にとってアイドルが身近な存在になった

●アイドル―ファン
握手会の増加、Twitter やブログの一般化、敷居の低さにより知り合いにアイドルがいる率 UP
→アイドルが他人事ではなくなっているほど身近

AKB48 やももいろクローバーZ をきっかけに、今やたくさんのアイドルグループが存在していることを知り、無限の選択肢の中で各々の趣味に会ったグループにハマっていく、というのが今の女性のアイドルファンの増加の構造ではないか。

「アイドルが普通のものになった」現象　←AKB48 のメディア露出
「ヲタクが普通のものになった」現象　←“しょこたん”（中川翔子）の存在

現代の女性アイドルの特徴：敷居の低さ、選択肢の多さ

第一部女性がアイドルに惹かれる理由

第１章　女性にとってアイドルの存在とは　　・・・女性がアイドルに抱く感情について

女性（竹中）　→　男性アイドル（嵐）
“理想の彼氏像”“恋心”　⇒感情移入

アイドル用語の「推し（担当）」→感情移入することだ
アイドル性：作品だけでなく、「存在そのものに惹かれる」という魅力。アーティストや俳優、スポーツ選手などあらゆる職業の人が持ち得るもの

ファンを分類→「対面派」（客席から応援したい）、「並列派」（同じステージに立ちたい）
ライブ会場でのファッション意識　男性＜女性

まばゆいオンと等身大のオフ
オン：非現実的ともいえるステージ衣装を着てパフォーマンスする姿
オフ：ブログ、Twitter、オフショット映像などで垣間見れる自然体の表情
⇒現代の女性アイドルはオフまで含めてコンテンツ化されており、それこそが感情移入しやすい理由

第２章　アイドルとセーラームーンの共通点　　・・・より具体的にアイドルという存在を説く

セーラームーン
（現代の）グループアイドルとの共通点：仲間がいること　⇒キャラクターの確立
オンとオフ、両方が見れる　ギャップが魅力
担当カラー,がある
服（戦闘着/衣装）:「非現実的」→あこがれを誘う
真似することで「変身願望」が叶う
決め台詞/キャッチフレーズ
「物語性」成長・成功ストーリー　　←感情移入の重要な要素

第３章　アイドルとアイドル性

「アイドルの先に何があるのか」ではなく「アイドルとしてどう成長していくか」という考えを持つアイドルが増えてきた→より多くの人から愛され、自分の納得いく自分になるまで、戦いは続く

女性　→　女性アイドル
“あこがれ”“母性本能”　⇒感情移入　　究極：アイドルからあこがれられるアイドル
＝「スーパーアイドル」

SMAP→４０代の男性アイドルを認めさせた
「彼らだから」ファンが離れていかなかったことを証明
「彼らじゃなきゃ」「あの子じゃないと」いけない
↑
アイドル性：年齢や性別、ジャンルなどの垣根を超えて持つ可能性がある
技術論などの理屈を超えた「そのものの肯定」
→努力と技術だけが評価軸ではない